

亀井茲矩公墓所の国史跡指定申請について

【事業の経過及び背景】

平成 29 年度、島根県津和野町が「津和野藩主亀井家墓所」の国史跡指定を目指しており、文化庁より気高町山宮に所在する「亀井茲矩公墓所」についても合わせて申請してはどうかと情報提供があった。

【事業の目的及び効果】

津和野町と合わせて国史跡指定申請を行うことで、指定の可能性を高めるとともに、指定を受けることで、修復等に対する補助金等を活用することができる。

【事業の内容】

国史跡指定申請を行うため、亀井茲矩公墓所の墓石、燈籠等の 3 次元レーザー測量及び周辺地形の測量を本年度実施。

【今後の展開】

亀井公ゆかりの資源を磨き上げ、ネットワーク化・パッケージ化をしていくとともに、山陰海岸ジオパークのエリアであることと併せて発信していきます。



【亀井公ゆかりの資源】

◎気高の生姜（瑞穂生姜、日光生姜）

血行促進の作用があり、身体を温める効果を持つ生姜。古くは日本最古の医学書「医心法」にも、その名が登場しています。

鳥取県東部の鳥取市気高町は、鳥取県内随一の生姜の産地です。その歴史は、鹿野（しかの）城主の亀井茲矩（これのり）公が朱印船貿易により東南アジアから生姜を移入し、現在の鳥取市気高町瑞穂（みずほ）地区の日光（にっこう）集落で栽培を奨励したことが起源とされ、400年以上の栽培の歴史を有します。

“日光生姜”と“瑞穂生姜”のある気高の生姜は、栽培方法がそれぞれ独自のもので、辛味や香りが強く、生産量の少ない希少な生姜で知られています。収穫した生姜は、横穴を利用した貯蔵庫「生姜穴」で半年以上も貯蔵され、サラサラの土の中で熟成されることで、生姜の美味しさと効能をさらに引き出しています。



◎気高町睦逢 大堤池の「うぐい突き」

「大堤池のなりたち」

今からおよそ 430 年前の 1581(天正 9)年、豊臣秀吉にしたがって鳥取城を攻めた亀井茲矩(かめいこれのり)公は、その戦いの手柄により気多郡(旧気高郡)一万三千八百石が与えられ鹿野城主となりました。そして 1587(天正 15)年、秀吉が天下を統一すると茲矩は領内の会下村、八幡村、下原村などの新田を開発し、産業振興に努めました。稲作栽培には大量の水が必要だったので、谷間をせき止めてため池を作りました。このため池が今に残る「睦逢の大堤池」です。大堤池は会下、郡家、下原など下流の水田に水を引く農業用ため池です。

茲矩は、1600(慶長 5)年の関ヶ原の戦いで徳川方に味方し、さらに高草郡(旧鳥取市の一部)を治めました。そして、新田開発、林業、牧畜、漁業などの産業振興のほか、東南アジアの国々と貿易を行って領民の豊かな暮らしに努めました。

「うぐい突き」

大堤池は昔から農業用水として利用するほか、春には鯉やフナを放流しています。また、秋には池の底にたまった泥やゴミを取り除くとともに、放流した魚を捕獲するため水抜きを行います。このとき行う魚とりの方法を「うぐい突き」といいます。

「うぐい突き」は「うぐい」という竹で編んだかごを泥の中に突きたて、中に入った魚を取る漁法で、亀井茲矩公が朱印船貿易の時にシャム(現在のタイ)から学んできたものといわれています。

“うぐい突きまつり”の当日はうぐいを無料で貸し出し、この漁法を体験でき、魚のつかみどりも体験できます。



◎布勢の清水

古くから、生活用水等として利用され、明治42年には、この清水を利用し町内でも初めての水道が、住民の力によって道路沿いに敷設された。この清水は、生活には欠かせないものであり、住民は、湧水地の環境を守るため、集落を挙げて積極的に保全活動を行う傍ら、新設された県道まで水道を敷設し、多くの人たちが利用できるよう配慮している。湧水地には、普通、山地地域に分布するバイカモが、生育しており、標高50mの低地での生育分布は極めて稀である。また、湧水地の背後には、布勢平神社の社叢があって、タブノキを中心とする、胸高100cm以上の大径木の照葉樹林となっており巨木林として価値が高い。

環境省では、全国に存在する清澄な水を再発見するとともに、これを広く国民に紹介することを目的として昭和60年に「名水百選」を選定しました。さらに、平成20年6月には、水環境保全の一層の推進を図ることを目的に、地域の生活に溶け込んでいる清澄な水や水環境のなかで、特に、地域住民等による主体的かつ持続的な水環境の保全活動が行なわれているものを「平成の名水百選」として選定しました。その中に、鳥取市気高町殿にある「布勢の清水」が選定されました。

この清水が何時頃から湧き出たのかわかっていませんが、「八幡さんの清水」とも呼ばれ、豊富な水量と良質清冷をもって近郷に広く知られており、亀井茲矩公が「その清冷さ氷のごとき」と称賛し、傍らに涼亭を設けて納涼したといわれています。（気高町誌より）

